

長年の功績を称えて 香美市市民賞

11月3日、第16回香美市市民賞表彰式が香美市役所で開催されました。この賞は、産業・教育・文化・政治・福祉などの分野で活躍、貢献のあった方を表彰するものです。

今年は、3名・2団体が受賞され、式典では、表彰状と記念品の授与が行われました。

受賞された方々の、今後ますますのご活躍をお祈りいたします。



▲ 森本ちづさん(左から2番目)・岡林静窺さん(3番目)・
[香長小学校相撲場保存会 代表] 小野山清春さん(4番目)・
[前田敬文さんの代理として 奥様] 前田恵さん(5番目)

森本 ちづさん

(物部町大栃) 75歳

森本さんは、昭和49年に物部村の学校栄養職員に採用され、平成17年から退職されるまでの4年間は、当時、県下でも初となる学校栄養教諭として、大栃小学校でご活躍されました。

また、退職後は大栃小・中学校の学校コーディネーターとして、地域と学校を緊密に結びつける重要な役割を果たされ、児童の健全育成や地域の振興に貢献されました。

岡林 静窺さん

(土佐山田町宝町) 85歳

岡林さんは、平成元年から平成18年の間に香北猟友会長を、その後、物部地区猟友会と合併した香美猟友会でも引き続いて会長職を務められ、令和6年までの計35年間、その温厚な人柄と秀でたリーダーシップで、猟友会員をまとめられました。

また、狩猟に関する深い知見をもって有害鳥獣の捕獲や被害対策に携わり、大きく貢献されました。



▲ 香長ダイハツソフトボールクラブの皆さんは、式典当日もソフトボール教室開催のために活動されており、式典は欠席となりましたが、後日、依光市長から代表の中山さんに、表彰状と記念品を贈呈し、受賞をお祝いしました。

前田 敬文さん

(香北町美良布) 72歳

前田さんは、昭和57年から現在に至るまで、医師として長年にわたりご活躍されており、平成17年には前田メディカルクリニック(香北町美良布)に勤務、平成30年には香美市立大栃診療所の指定管理者に就任、令和3年には医療法人同仁会の理事長に就任されるなど、地域医療の維持・発展に大きく貢献されております。



※ 受賞者(個人)の皆さんの年齢表記は、令和6年11月3日時点のものです。

香長小学校 相撲場保存会

(代表者：小野山 清春さん)

香長小学校相撲場保存会は、平成7年に、児童のためを思う有志により、前身となる相撲場建設準備委員会を発足し、さまざまな苦労や壁にも負けず、翌年(平成8年)には相撲場を完成させました。

現在でも相撲場の維持や校内の相撲大会に携り、地域と児童の結びつきに大きく寄与されております。

香長ダイハツ ソフトボールクラブ

(代表者：中山 周平さん)

香長ダイハツ ソフトボールクラブは、昭和39年の結成以降、全国の大会でも優秀な成績を収められるなど、長年にわたりご活躍されております。

また、現在でも県下のソフトボールチームとの交流や指導などを定期的に行うなど、積極的に活動されており、市のスポーツの発展に大きく貢献されております。

風の流

◆ 一般投稿作品 ◆

広報委員会 選

鈴虫や野鍛冶の弟子はツシ二階
冷んやりと山頂の月瓶が森
彼岸花半月遅れ草刈れず
かじかなく古里の川声はよい
蚊よおろかわが丸き鼻をすべり落つ
一年や走馬灯事去りしけり
名月やスーパームーンは黄金色
われ想う咲いて消え行く彼岸花
真夜中の虫の音我を癒しけり
秋日和散歩の影も伸びにけり

◆ とさやまだファミリア ◆

一人部屋サザンカ一輪ほのぼのと
銀杏散りハートのジュウタン竹箒
寒さ来たこたつ囲んで足満員
北の山暑さこらえて冬を待つ
収穫の終わった案山子横になる

◆ 「清光」グループ ◆
本めくる音の重みも梅雨湿り
糸一本心かよわせいかのぼり
ぼつぼつと下ごしらえやおでん鍋
老親と過ごす時間や花朧
瑠璃色の野道明るきいぬふぐり
高々と枇杷の実太く色づきし
白鷺の脛の露わに冬の川
さくらんぼ口に含めば母の顔
ふらここの揺れるる夕べ誰を待つ
雪道に柱時計や大地震
凍星や母の小言に頷きて
指折りて秋の七草詣じる
絵葉書は祖母の描きし秋桜
こがらしの中を一人のウォーキング

秋山 英身
茂野 光正
原 恭子
秋 星
大場比奈子
溝淵 龍泉
井上 佐和
東 月
山岸 孝子
中橋 京子
小松 美鶴
藤本すみ子
明神かおり
吉川 恵樹

◆ かほく俳句会 ◆

りんどうの花閉ちてをり雨もやう
やはらかく刈田踏み往く群れ鴉
おろおろと起きて水飲む秋の朝
山里の落暉や軒の吊し柿
秋茄子の色を大事に炊き上げる
詠み給へ描き給へと山装ふ
大根蒔くまだ鍬打てる自足かな
鳴鳴かぬ日よ鈍色の空なれば
三つ編みの少女の項風は秋

乾 真紀子
佐竹 洋子
津田吾燈人
野村 里史
古川 信子
宮崎ただし
宗石 愛喜
山崎かずみ
山崎 鈴子

俳句・短歌の投稿方法

▼ 投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。

▼ 俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。

【投稿先】総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌係」
〒782-18501 (住所記載不要) FAX 53・5958

今月のキラリ

広報委員会

蚊よおろかわが丸き鼻をすべり落つ

夕涼みをしていたのでしようか。ふと気がつく、蚊が自分の鼻に近づいてきている。払おうとおもったその時、蚊が自分の丸い鼻をすべり落ちていった。日常の一場面を面白く楽しく表現された、ユーモアあふれる一句。
(季語：蚊(夏))

収穫の終わった案山子横になる

黄金色に実った、稲の刈取りも終わり、今まで凛として立っていた案山子も、ゆつくりと引き抜かれ刈田に横たわっている。収穫の満足と安堵感がたよう。きつと、やさしく秋風も吹いていたであろう、そのようなことも想像できる詩情豊かな一句。
(季語：案山子(秋))